

AFTERNOON TEA

「プラン」は重要?!

生理学研究所（岡崎統合バイオサイエンスセンター）
細胞生理研究部門

内田 邦敏

生理学研究所（岡崎統合バイオサイエンスセンター）細胞生理研究部門の内田邦敏と申します。東京大学大学院 農学生命科学研究科の堀尾奈央さんからの紹介で今回執筆させて頂くことになりました。堀尾さんと初めてお会いしたのは特定領域研究「細胞感覚」の班会議でした。その特定領域研究で知り合った先生方とは今でも交流があり、特に若手の会は、現在でも生理学研究所研究会として研究について熱い議論を続けています。生理研研究会：細胞センサーの分子機構・相互関係・ネットワーク研究会を毎年11月頃に岡崎にて開催しておりますので、興味のある方は是非ご参加ください！この会ではエネルギッシュな先生の参加を熱望しております。詳しくは生理研ホームページ (<http://www.nips.ac.jp/#tab4>) をご覧ください。

さて、数年前に入澤宏・彩記念若手研究奨励賞を頂いた際に「孔子曰く、吾15にして学に志ざす...」と本会誌に寄稿したことの恥ずかしさが今でも消えないので、今回は肩肘張らずに書かせて頂きます。

さて、何を書こうか???

趣味のこと... 否あまりにも狭く浅すぎてこれは厳しい。自分の飽きっぽさを嘆く某日の深夜、自分の部屋をふと見渡すと大切にしているものがあることに気づく。ひとまず列挙してみる。

・野茂英雄さんの直筆サイン。あまりサインを書けなかったことで有名な方らしいので大変貴重らしい。しかし貴重かどうかは問題ではなく、僕の名前入りのこのサインは宝物として常に部屋に飾っている。



妻と愛車と千里浜なぎさドライブウェイ。妻についてはプライバシーの関係で省略。今の愛車はホンダシビック Type R-X (EK-9, 2000年式)。NAテンロクにして185馬力/8200回転、16.3 km/7500回転という超高回転型エンジンを心臓に持ち、レカロシート、モステアリング、アルミパッドペダルなどが標準装備という全てが走るための車。タイヤはADVAN NEO-VA AD08R。バルブタイミングが切り替わる6000回転からレプリミット8500回転までの吹き上がりは官能的の一言。意外にも高速を走ればリッター15 kmを超える優れもの。唯一の難点は妻がAT限定であること。千里浜なぎさドライブウェイは石川県にある日本で唯一砂浜を車で走れる全長8 kmの道路。波打ち際まで車で行くことが可能。どうでしょうさんロケ地。

・JBLスピーカー L166 Horizon。知り合いの先生から大切にすることを条件に譲り受ける。最近中古ショップで掘り当てた山水のアンプ SAN-SUI AU-α607NRA と接続したことで音が劇的に変わって感激中。この原稿を書いている今現在ももちろんこいつで音楽を聴いている♪

・アイルトン・セナの本とポスター。Senna is my idol...

・4代目の車（古いシビック，写真）。

車自体のことを語り始めるとマニアックな方へと突っ走り上限文字数を超えそうなので，車でなにをしているかを書くことにしよう。

僕はよく愛車とぶらりと出かける。「ぶらり」とは，地図も持たず青看板（案内標識）のみを頼りにちょっと隣町でも日帰りでも一泊でも走りにでることである。大抵は知らない道だが構わずに標識だけを頼りに走る。あるはずの国道が案内標識の消失とともになくなることもしばしば。車線が消えアスファルト舗装が消え結果として道がなくなりバックで山を降りたこともある。建物もなくなり街路灯もなくなると不安になってくるが，たとえ小さな街でも景色が開けて明かりが見えてく

るとその景色が5割増にみえてくる。そんなことをしながら愛車を手懐けるのが喜び。一泊でも目的は1つ，あとの予定・情報は現地調達（最近はスマホでも...）。こんな移動なので予定が立たないから決めようがないのだが，現地調達は時に奇跡を生む。この奇跡が5割増以上の感動になるのもまた醍醐味。歩く足には棒あたる，である。諸事情により最近「ぶらり」をしなくなりましたが，こんな旅が僕は好きだ！！

もうずいぶん昔のこと，某ラジオ番組で恋人と旅をするならA. ほぼノープランのぶらり旅，B. きっちり分単位プランの旅，どっちが良いか？という議論が白熱していたことを思い出しました。僕は当然Aですが，皆さんはどうですか？



街中の自然を探して

理化学研究所脳科学総合研究センター

酒井誠一郎

明治大学の向井秀夫さんよりバトンを引き継ぎました。向井さんとは，東京・埼玉近辺の電気生理研究者で飲むときに，よくご一緒させていただいております。

私は，昨年度から理研 BSI の局所神経回路研究チーム（細谷研究室）にて，大脳新皮質の複雑な神経回路網において機能単位となるような単純かつ普遍的な局所神経回路は存在するのか，そしてその局所神経回路はどのような構造と機能を持っているのか，組織染色やスライス電気生理，in vivo カルシウムイメージングを用いて研究を行っています。その前は，東北大学の八尾寛教授の元で学部卒業研究～博士課程まで勉強させていただき，海馬シナプス可塑性の研究やオプトジェネティクスの技術開発を行ってきました。

仙台は学部生のときから10年間過ごしたので，第二の故郷のような思い入れがあります。仙台は人口100万の都市とは思えないくらい自然が近くにあり，街中の広瀬川にはカジカガエルや野鳥が

沢山生息しており，秋には鮭が産卵しに遡上してきます。東北大学の青葉山キャンパス周辺には熊やムササビ，フクロウが生息しており，研究室のあった片平キャンパスや私の住んでいたアパートは仙台駅からバスで15分くらいの場所で，繁華街もすぐの場所でしたが，青葉山から下りてきた熊が近くの河川敷に現れて騒ぎになったこともあります。家の前で熊と遭遇するのは嫌ですが，身近な自然や生き物たちは安らぎと癒しを，そして生き物に対する好奇心を与えてくれました。そんなわけで，仙台を離れて都内に引っ越すときには，東京はビルと住宅街が広がっていて自然は少ないというイメージがありましたので，より一層名残惜しい気持ちになったりもしました。

理研のある和光市や隣の練馬区は住宅街が広がっており，こちらに来てみて，やはり自然が少ないと初めは思っていました。都心の様にビルが密集しているわけではありませんし，大きな公園もあるのですが，公園の緑も人工的なものに感



カブトムシ vs ヒキガエル (光が丘公園にて)

じられたのです。しかし、公園や川沿いの道をジョギングしていると、思いのほか多くの生き物が生息していることがわかってきました。練馬区の石神井公園にはカイツブリが巣を作っていますし、石神井公園周辺から井の頭公園にかけては武蔵野台地の湧水が数多くあり、こうした場所を巡ってみると様々な昆虫や野鳥、水中生物との出会いが

あります。光が丘公園の池ではカワセミやアオサギが魚をとっており、まれにオオタカがやってくることもあります。また、私がいつも帰る道はヒキガエルが何十匹も住んでいて、雨上がりの夜には自転車で轢いてしまわないように気をつけて走らないといけません。夏にはカブトムシやカナブンもよく落ちています。

こういった公園や川に生き物が多いのは郊外だからというのがあります。しかし都心でも、大きな公園や庭園では意外と多くの野鳥や昆虫が見られます。都市という人工的に見える環境においても、街中の公園には公園なりの、庭木には庭木なりの、大都市には大都市なりの生態系がつくられており、「こんな街中に!？」と驚くような出会いがあるということが私にとって大きな発見でした。街中の小さな自然ですが、そこに住む生き物たちは、昆虫を探した小学生の頃のようなワクワクする気持ちと呼び起こし、生物の不思議に対する興味の原点を私に思い起こさせてくれるのです。